



学校だより

令和7年9月8日
前期学校評価号

日頃より、本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、7月に実施いたしましたアンケート結果についてご報告いたします。ほぼ同じ時期に実施しました児童アンケートの結果や学校職員による評価と併せて、アンケートの結果をご報告いたします。この結果を、今後、子どもたちの育成に生かしていきたいと思ひます。アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

※回答は、「A：あてはまる」「B：ややあてはまる」「C：ややあてはまらない」「D：あてはまらない」から選択。
左表中の数値は、そのうちの「A」の割合（上段）と「A+B」の割合（下段）を示しています。（%）

1. 令和7年度 前期 学校評価結果とその分析と今後の取組

	重点項目	児童アンケート	A 値 A B値 (%)	保護者アンケート	A 値 A B値 (%)	教職員アンケート	A 値 A B値 (%)	分析と今後の取組
共通	学校生活	学校は楽しい	58.9 92.5	お子さんは、「学校は楽しい」と思っている	54.1 95.4	子どもたちは、学校で楽しく過ごしている	50.0 100	学校が楽しいと肯定的に捉えている子が9割以上であり、教職員の関わりや行事等、児童が安心して楽しく学校生活を送ることができる環境づくりを進めてきた結果であると考えられます。今後も学校が楽しいと児童が感じられるように、児童が安心できるような声をかけたり、友達との関わりを見守ったりしていきたいと思ひます。また、行事において、日々の振り返りを充実するなど児童自身が成長や喜びを実感できるように指導をしていきます。
	自己肯定感	自分には、よいところがある	36.8 84.2	お子さんのよいところを、お子さんに伝えている	50.0 97.2	子どもたちの自己肯定感が向上するよう、努力や過程を認める声かけや児童同士の関わりを大切にした教育活動を行っている	63.6 100	自分には良いところがあると肯定的に捉えている子が8割いる中、2割近い子が良いところがないと感じています。一方、保護者や教職員は評価が高い傾向にあることから、意識に差があることがわかりました。今後も児童のいいところを見つけて声かけするなど、積極的に児童に良さを伝えていきたいと思ひます。また、保護者とも共有しながら、児童が自分の良さを認められるようにし、自己肯定感を高めていきたいと思ひます。
確かな学力の育成	わかる授業	授業は、わかりやすい	54.5 90.1	お子さんは、「勉強は分かりやすい」思っている	21.1 83.9	ねらいを(育みたい資質、能力)を明確にし、子供一人一人が「わかった」「できた」と実感できる授業を行っている	25.0 100	児童のA評価が55%に対して、保護者が21%と差が見られました。学校での学びが定着せず、家庭学習で悩んでいる児童がいることも考えられます。引き続き学校研究の共通実践に全職員で取り組み、授業改善を行っていきたく思ひます。また、児童が「できた」「わかった」と実感できるよう、ノート指導や適用問題(定着させるための問題)の充実にも取り組んでいきます。
	学び合い(説明する力)	相手の話を分かってあげようと思ひたり、相手に分かってもらうとして話したりする	53.8 91.3			相手の話を分かってもらうとして聞く、相手に分かってもらうとして話す、など相手意識をもって伝え合う指導をしている	61.9 100	問題解決型の授業づくりができていて、9割以上の児童が肯定的評価となっていると考えられます。しかし、学年によっては肯定的評価の割合に差が見られました。今後さらに児童がみんなまで学びたい、考えたいと思えるような課題設定や問題提示を考えていく必要があります。伝え合いの場面では、誰と何について話するか、何のために話すのか明確にし、褒め、認める声掛けをしながら、伝え合いの良さを感ぜられるようにしていきます。
	家庭学習	家庭学習は(1年:20分 2~6年:学年×10分)の時間、取り組んでいますか	50.6 84.2	お子さんに家庭学習の時間(学年×10分)をとっている	33.9 76.1	児童が家で学年のめあての学習時間(学年×10分)の勉強に取り組めるように指導している。	52.9 88.2	全校共通の取り組みを行う等、粘り強く指導していることで8割以上の児童が家庭学習に取り組んでいる一方、家庭学習をしない児童もいます。また、学年相応の学習時間はできておらず、与えられたものをこなすのみで学年×10分していないと感じている保護者も多いと考えられます。児童に合った宿題の量や方法を考えたり、自学ノートや家庭学習の頑張りを紹介したりして、児童が意欲的に取り組めるようにしていきたいと思ひます。
豊かな心の育成	いじめなし	いじめられたり無視されたりすることなく、安心して過ごしている	62.8 83	お子さんは、いじめられたり、無視されたりすることなく、安心して過ごしている	65.6 92.2	子どもたちは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごせるよう指導している	86.4 95.5	年度当初に相手のことを知り、自分のことを伝える交流活動を行うとともに、定期的なアンケートを実施してきた結果、子どもたちが担任や友だちに思いを素直に伝えられる雰囲気が醸成され、悩んでいる児童の早期発見・早期対応につながって数値として表れていると考えられます。今後も、児童が安心して相談できる環境を整え、早期発見・丁寧な対応を行っていきます。また、授業や行事を通して、友だちとの関わり方や思いの伝え方等を指導し、ソーシャルスキルの向上を図っていきたく思ひます。
	思いやり	友達に対して、やさしく話したり、行動したりしている	54.9 95.3	お子さんは、友達に対して思いやりの心を持って行動している	45.0 97.2	相手意識をもった思いやりのある言動ができるように指導している	77.3 100	1学期前半には、友達との関係づくりを意識した取り組みを行って相手を受容する意識を持たせ、後半には認め合いの機会を設けることで、他者を理解しようとする思いが養われてきたと考えられます。今後も、優しい行動を見つけて伝え合う場を設定し、子どもたちのやさしさが広がるようにしていきます。また、クラス内だけでなく学年や異学年との関わりの中でも、相手を思いやって行動できる児童が増えるよう働きかけていきたいと思ひます。
	あいさつ	友だちや先生、見守り隊や地域の方に気持ちのよいあいさつをしている	72.9 97.6	お子さんは、日常的に「おはよう」「おやすみ」「いただきます」「たがいま」などのあいさつをしている	68.8 95.4	自ら率先垂範であいさつし、友達、先生、来校者、見守り隊、地域の方に、気持ちのよい挨拶ができるように、指導している	71.4 100	今年度は、企画運営委員を中心とした朝のあいさつ運動により、児童同士の横のつながりが増えてきています。教師が率先してあいさつすることで、自然とあいさつをする雰囲気が醸成されてきたことも肯定的評価に繋がっていると考えられます。今後も、あいさつをすることの良さやされることの良さを感ぜられるように声掛けし、あいさつを通して自分たちの学校(自分自身)を自分たちで良くしていきたいという思いを育てていきます。
健やかな体の育成	体力向上	体育の時間はめあてをもって、楽しくがんばれている	73.1 96.8			体育の時間等に、めあてを持ってねばり強く取り組めるように工夫している	64.3 92.9	多くの児童が体育の時間にめあてをもって楽しんで活動したり、目標に向かって頑張ったりしています。引き続き、児童の実態を把握し、それに応じた目標を設定し、活動を工夫しながら体力向上を図っていきたく思ひます。
	生活習慣(食への感謝)	感謝して給食を残さず食べるようにしている	69.6 91.7	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識して生活している	42.2 85.3	感謝して給食を残さず食べるよう指導している	82.4 100	9割以上の児童が感謝して給食を残さず食べています。これは、各クラスでの給食指導や栄養士による校内放送等、食育が進められている効果だと考えられます。今後は、児童の委員会活動でも様々な取組を考えて発信していけたらと思ひます。学校全体でも食育の充実を図っていきます。
	自己有用感	「自分たちの学校は自分たちでよくする」という思いを持ち、係や委員会などの役割を果たしている	61.7 95.7	お子さんと話す時間をとっている	51.8 97.2	「自分たちの学校は自分たちでよくする」意識を持たせ、自分の役割を果たせるよう指導している(係・実行委員・委員会など)	57.9 94.7	多くの児童が係活動や委員会、クラブ活動、実行委員などで、自分の役割を果たすことができていると感じており、自己有用感に繋がっていると考えられます。今後も、学年集会や学級会等で話し合う時間を設け、児童と教師の間で目標を設定する等事前指導をしっかり行い、活動後にはふり返りでできたことを価値づけていきたく思ひます。
運送・地域との	情報発信			48.6 91.7	学校は、児童の活動の様子を日常的な連絡や便り等で伝えている	47.4 94.7	保護者の肯定的評価は9割以上ですが、A評価を見ると5割弱となっており、学校が児童の活動の様子を十分伝えていると感じていない方も多くいるのがわかりました。月1回のおたより以外でも活動の様子を伝えられるように、ICTサポーターと連携し、ホームページの充実を図っていきたく思ひます。また、11月の学校公開日を保護者や地域の方に広く知って貰い、通常の授業風景も見てくださいたく思ひます。	

2. 保護者アンケートのご意見より

- 「個人懇談の時間をもう少し増やしていただけるとありがたいです。」
→お一人当たりの時間を長くすることは人数の関係で難しい状況です。ゆっくりお話ししたい方は、別日に時間をとりますので担任までお知らせください。
- 「一年生から日傘の使用を検討してほしい」
→蝶屋校区は風が強く、低学年の傘使用は非常に危険であることから、雨具はカッパ着用をお願いしています。日傘も同様に、低学年は安全上の理由で使用を控えていただきたいと考えています。
- 「暑い中、歩いて登下校時にネッククーラーをつけているが、登校だけでぬるくなってしまっているので保冷バッグを持たせて冷たさを維持できるようにしているのですが、学校で冷凍庫に保管するなどできたらいいなと思ひます。」
→学校の冷凍庫には、けがや発熱時等に必要な保冷剤を保管しています。全校児童の持ち物を冷やしておくスペースはありませんので、申し訳ありませんが水で濡らして冷やすタイプの物を使用するなど、工夫していただけないでしょうか。
- 「通学路の件で…毛虫に刺されて帰ってきたことがあり、もう少し学校からも通学路である以上地域の方と連携をとってほしい。…」
→通学路の安全については、見守り隊や地域の方と連携しながら改善に努めて参りたいと思ひます。
- 「携帯電話の使用ですが、親御さんたちは子供たちのLINEグループ等に目を通しているのか気になります。…我が家は目を通す代わりに持たせていますが、目に余る内容を度々見かけます。親御さんへの声掛けも必要かと思ひます。」
→ネットトラブルといわれているように、使い方次第で危険をはらみます。もたせる際にルールを決め、使い方の様子を把握していただき、正しい使い方ができるようご指導をお願いします。学校では、SNS等インターネット利用のリテラシーの授業や非行被害防止講座等で指導をしていきます。

3. 学校運営協議会での主なご意見

- ・「自分にはよいところがあるか」という質問は、「よいところ」の受け取り方が曖昧で子どもたちは答えにくいのではないのでしょうか。自分には良いところも悪いところもあるけど、自分が好きというのが自己肯定感だと思ひます。質問の仕方を変えてみると、実態にあった結果が得られると思ひます。また、評価の低い子を見て個別に教員が声掛けする意識をもつ必要がありますね。
- ・家庭学習の保護者の評価が低いのはどうしてなのか、詳しい思いを知ることができると対応策が考えやすいのではないですか。
- ・日傘の使用は、安全面を考えると低学年にはおすすめてできませんね。特に下校時は、道路の輻射熱があるため熱中症予防にはあまり効果は見られませんが、

学校運営協議会のみなさん
ありがとうございます！

運営協議会 会長 吉川 優子 様
運営協議会 副会長 根上 宏之 様
運営協議会 委員 吉倉 陽子 様
運営協議会 委員 山本 洋平 様
運営協議会 委員 盛本 喜治 様
運営協議会 委員 喜多 佳代 様
運営協議会 委員 木村 牧子 様
